

関係各位

教育体験活動等への学生受け入れのお願い

平素より、本学の教育活動に深いご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございます。

本学では、令和 5 年度より「自己創造のための教育体験活動」を新たな授業科目として開設いたします。この科目は、学生が 1 年次より学校をはじめとする教育活動の場に赴き、「教育の魅力」や「教職の魅力」に触れることを通し、学生の教員就職意欲の向上を図ることをねらいとしております。

関係各所のご協力を賜りながら、学生を教職へ導きたいと考えております。趣旨をご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 依頼内容

(1) 学生の受け入れ **高校生以下を対象とした教育体験活動(学校以外も可)**

[学校での活動例]

- ・平日、長期休業中における教育体験活動:授業参観、指導補助、教材研究補助、授業準備補助、水泳指導補助、部活動指導補助、移動教室引率補助、放課後こども教室支援、研究公開への参加など
- ・週末の教育体験活動:運動会や文化祭等の行事における指導補助、部活動指導補助など

(2) 教育体験活動終了時、活動カードへの「押印」と「評価」

- ・A から C の三段階評価。いずれの評価であっても活動時間として認めています。
- ・押印、評価の際、今後に向けた声掛けをいただくと幸いです。
- ・**なお、この評価は本科目の合否には直接関係しません。**

2. 期 間 5 月～翌年 2 月

3. 対象学年 東京学芸大学教育学部 1 年生

4. その他

- (1) 必要に応じて面接を実施し、受け入れの可否を判断してください。
- (2) 参加学生は大学において保険に加入する予定です。必要に応じて、各自治体、あるいは企業の教育ボランティアとしてご登録いただき、保険制度に加入してください。
- (3) 通常の実習とは異なる授業科目です。子どもたちと触れ合ったり、授業を参観したりするなどして教育活動の現状を知り、教員就職への意欲を高めることを目的としています。
- (4) 謝金等の有無は、本科目においては問いません。
- (5) 本科目は学生の自律的な学びを促進することを目的としています。学生の取り組み姿勢に問題があればご指導ください。また、活動参加を断っていただいても構いません。

以上

【問い合わせ先】東京学芸大学 キャリア支援課
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
e-mail: shushoku@u-gakugei.ac.jp

《参考》授業科目「自己創造のための教育体験活動」について

① 本科目のねらいと概要

3年次の教育実習に参加する前に、自らが求めて学校現場等で、ある一定期間体験活動を行うことを通して、教職の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることを目的とする。参加にあたり学生は、ねらいを明確にした計画書を作成する。また、体験活動では教師や子どもの現実に触れる過程での気づきや考え、自己の成長を記録する。まとめとして学生間の情報共有や議論の場を設ける。このようなプロセスを通して、教職を目指す上での自己のアイデンティティを形成するとともに、自ら学び、成長し続ける意義について理解する。さらに、教育体験活動を通して得た学びを基盤として、教育創成科目を選択して課題解決を図ったり、課題を明確化して教育実習に臨んだりする。(別紙図1参照)

② 対象学年

1年生 ※R6年度以降、2年生も履修可

③ 授業形態

選択1単位 「自己創造のための教育体験活動A」「自己創造のための教育体験活動B」「自己創造のための教育体験活動C」の3単位取得可

オリエンテーション参加(計画書作成)、教育体験活動、ふりかえり(活動交流会参加、報告書作成)

単位として認められるためには、30～45時間の教育体験活動が必要

各学期に1単位のみ取得可能

本科目のために授業を欠席しても公欠扱いにはならない

④ 教育体験活動のフィールド

- ・本学近隣の幼、小、中、高、特別支援学校
- ・学生の母校、地元の学校
- ・本学附属学校園
- ・その他、塾、家庭教師など高校生以下を対象とした教育活動の場

⑤ 活動例

- ・授業と重ならない平日、長期休業中(8月～10月中旬など)における教育体験活動
- ・週末の教育体験活動

⑥ 実施の流れ

5月 本学においてオリエンテーション

5月～ 各学校へ本学学生から連絡・各校、活動場所にて面談

計画書の作成・提出

教育体験活動

報告書の作成

活動カードに担当者による「押印」「評価」

9月、2月 報告書の提出、活動交流会参加、単位認定